

VII 現職教育計画

1 校内研修計画

(1) 研究主題

深い学びにつながる授業づくり

～学習の振り返りを通して育む深い学び～

(2) 主題設定の理由

本校では、令和2年度より「深い学びにつながる授業づくり」という研究主題のもと、これまでの研究で培った主体的・対話的な学びを生かし、各教科等の固有性や本質を視野に入れ、より質の高い学びを目指す「深い学び」が実現できるよう、教員の授業力向上と生徒の学力向上を柱として研究を行ってきた。

今年度は、副題として「～学習の振り返りを通して育む深い学び～」を追加し、学習の振り返りに重点を置いて研究を行う。これは、生徒のアウトプットがより充実した内容になることを目指すことで、深い学びを視覚化しながら改善を進めることができるためである。これまでの主体的・対話的な学びに関する研究を継続しながら、より深い学びにつながるように、この研究主題および副題を設定した。

(3) 本年度の研究の方針

①授業力向上の取組

ア 研究授業による授業改善

イ 教科部会の充実

ウ 校内研修会の充実

エ 授業スタイルの確立

オ 学力調査およびアンケートをいかした実態把握および改善策の検討

②学力向上の取組

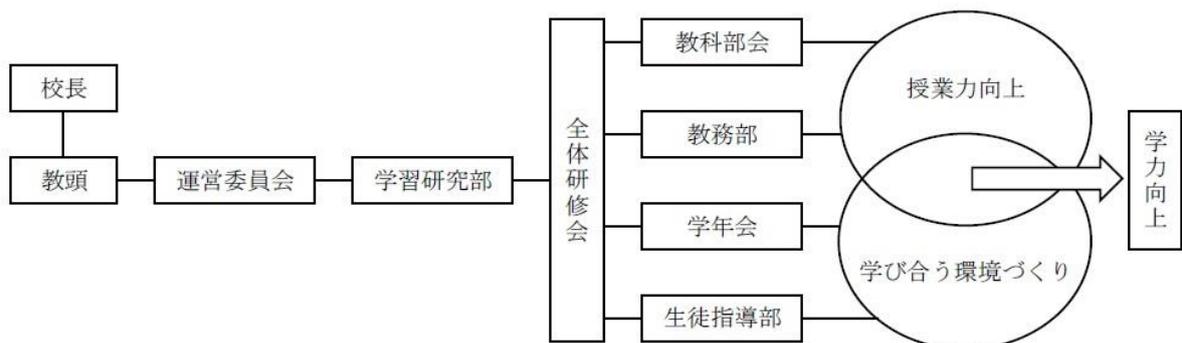
ア 学力を支える基盤づくり

イ 学習の振り返りの充実

ウ 学習活動の時間を利用した読書や基礎学力補充の取組

エ 生徒会活動と連携した取組

(4) 研究組織



(5) 研究内容

①授業力向上の取組

ア 研究授業による授業改善

- ・各教科および道徳科、特別支援教育を含めて4チームに編成し、各チーム1回以上の研究授業を実施する。
- ・外部指導者を招聘して指導助言を受ける。

イ 教科部会の充実

- ・「主体的な学び」、「対話的な学び」を推進し、「深い学び」につながる教科の研究テーマを決定し実践する。
- ・教科部会を定期的に実施し、授業改善や学習指導案の検討を行う。
- ・各教科の指針である「学びの手引き」を用いて共通実践を行い、さらに検討を重ね、改善及び更新を行う。また、学習の振り返りに活用する。

ウ 校内研修会の充実

- ・全体研修会や校内若手教員研修会を実施する。
- ・校外研修の還元を必要に応じて行い、情報交換を行う。
- ・相互授業参観期間を設定し、授業力向上に努める。

エ 授業スタイルの確立

- ・「自分で みんなで 考える 金沢型学習スタイル 教科編（改訂版）」および「自分で みんなで 考える ICT版金沢型学習スタイル」を意識した授業を工夫する。
- ・主体的な学び、対話的な学びを促し、深い学びにつなげる授業づくりを行う。

オ 学力調査およびアンケートをいかした実態把握および改善策の検討

- ・「各種学力調査」、「学習アンケート」、「学校評価アンケート」により現状把握、分析を行い、各教科で改善策を考え、共通実践し、検証を行う。

②学力向上の取組

ア 学力を支える基盤づくり

- ・「学習の心得」をもとに、授業の基盤づくりを行う。
- ・授業における重点項目を設定し、共通実践を行い、実施数調査等によって検証を行う。
- ・自主学習用ノート（ステップアップノート等）により、家庭学習の充実を促す。
- ・定期テスト前、長期休業中に質問教室を開催する。

イ 学習の振り返りの充実

- ・各単元もしくは各小単元において学習の振り返りを行う。
- ・正しい用語や適切な表現を使用し、教科の見方・考え方を生かした振り返りを促す。
- ・学びの手引きの活用し、振り返りを行う。

ウ 学習活動の時間を利用した読書や基礎学力補充の取組

- ・学習活動の時間に読書活動を推進する。
- ・定期テスト前は学力補充に取り組む。
- ・時期に応じて、基礎学力補充の学習を行う。

エ 生徒会活動と連携した取組

- ・学習委員会では、「学習の心得」や自主学習用ノートの活用促進の取組を行う。
- ・各種委員会やリーダー会において学力向上に向けた取組を行う。

学習の心得

1. 学習の構えを整えよう。
2. 聞く・話す・書くを大切にしよう。
3. 知識・技能を習得しよう。
4. 自ら考え・表現しよう。
5. 家庭学習に取り組もう。

(6) 研究計画

実施月	内容	備考
4月	校内研修会および研究の方向性の共通理解 授業で行う重点項目の設定 教科の研究テーマの決定	学力向上の取組（1学期）の設定
5月	研究の方向性の改善と共通理解	全国、県学力調査（3年）の実施
6月	研究授業（要請訪問）	
7月	研究授業を受けて、研究の方向性の改善と共通理解 学習アンケートの実施	
8月	学習アンケートによる実態把握、分析、改善策の検討 各種学力調査の分析、対策、検証の検討 授業で行う重点項目の検証、改善策の検討	
9月	研究の方向性の改善と共通理解 授業で行う重点項目の再設定	学力向上の取組（2学期）の設定
10月	研究の方向性の改善と共通理解	
11月	研究授業（要請訪問） 相互授業参観期間	
12月	研究授業を受けて、研究の方向性の改善と共通理解 学習アンケートの実施	県評価問題（2年）の実施
1月	学習アンケートによる実態把握、分析、改善策の検討 各種学力調査の分析、対策、検証の検討 授業で行う重点項目の検証、改善策の検討	学力向上の取組（3学期）の設定
2月	研究の方向性の改善と共通理解 授業で行う重点項目の再設定	
3月	令和3年度の研究の文書報告 研究の総括	

2 研究授業計画

(1) 目的

- ①研究主題および各教科の研究テーマをもとに検討し、授業改善および授業力向上にいかす。
- ②外部指導者をはじめとし、さまざまな方から指導・助言をいただき、授業改善に努める。

(2) 対象

- ①以下のように4チームを編成する。ただし、道徳科、特別支援教育は所属学年で編成する。

A：国語科、美術科、保健体育科

B：社会科、数学科、技術・家庭科

C：理科、音楽科、英語科

D：道徳科、特別支援教育

- ②各チームで学習指導案を検討し、1名が研究授業を行う。

(3) 時期及び形式

①時期

ア 前期および後期に、研究授業月間（6月、11月）を定めて行うものとする。

イ 以下の計画で行う。

	A 国語科 美術科 保健体育科	B 社会科 数学科 技術・家庭科	C 理科 音楽科 英語科	D 道徳科 特別支援教育
2021年度	11月 美術科	6月 技術・家庭科	11月 理科	11月 特別支援教育
2022年度	11月 保健体育科	11月 数学科	6月 英語科	11月 道徳科
2023年度	6月 国語科	11月 社会科	11月 理科	
2024年度	11月 保健体育科	6月 数学科	11月 英語科	11月 特別支援教育
2025年度	11月 国語科	6月 社会科	11月 音楽科	

②形式

ア 教科について研究授業を行う。

イ 各チームで指導案検討会、授業整理会を持ち、お互いの授業改善につなげる。

ウ 参観は、当該教科の教員は全員参観する。チーム内他教科の教員はできるだけ参観する。

エ 研究授業は要請訪問を兼ねる。

※本校の研究主題に基づいた研究授業であれば、学校図書館サポート訪問による研究授業と兼ねることができる。